



# ベリーズ

Belize

2007年9月現在



## 一般事情

- 1.面積 22,963平方キロメートル(四国より少し大きい。日本の約16分の1)
- 2.人口 29万人(2005年 世銀)
- 3.首都 ベルモパン(人口:1.1万人)(日本との時差:-15時間)
- 4.民族 混血(メスティーソ)44%、クレオール黒人系30%、マヤ族11%、ガリフナ(黒人とカリブ族の混血)7% 他
- 5.言語 英語(公用語)、スペイン語、クレオール語、マヤ語、ガリフナ語
- 6.宗教 カトリック、英国国教会、メソジストなど
- 8.通貨 ベリーズ・ドル  
為替レート 1米ドル=2.00ベリーズ・ドル(固定)  
補助通貨単位 100セント=100CENT/S

## 9.査証(ビザ)

- 10.在留邦人数 46人(2006年10月現在)
- 11.在日当該国人数 5人(2006年12月現在)
- 12.電源 - V - Hz コンセント・タイプ
- 13.国際電話 国番号 501 国際通話コード 0
- 14.シガレット 小売価格 - US\$ (20本当り)  
税率 - %  
製造数量 100(百万本/年)  
シガレットメーカー

Caribbean Tobacco Company Limited

## 15.略史

年月	略史
1502年	コロンブスにより「発見」、メキシコ副王領(スペイン領)に編入
1798年	英国人入植者、スペイン軍に勝利し、自治拡大
1821年	スペインから独立したグアテマラが領有権を主張
1862年	ジャマイカ総督領に編入(英領ホンジュラスとして正式に宣言された)
1884年	ジャマイカ総督の管轄から切り離され、英領ホンジュラス総督が設置された。
1981年	独立
1991年	グアテマラがベリーズを承認

16.在外大使館・領事館 なし

## 17.駐日大使館・領事館

ベリーズ大使館  
Embassy of Belize in Japan.  
〒106-0031 港区西麻布4丁目12-24 第38興和ビル907号  
電話:03-3400-9106

在東京ベリーズ名誉総領事館 管轄:日本全土  
Honorary Consulate-General of Belize in Tokyo  
〒106-0031 東京都港区西麻布1-11-6-1208  
電話:03-3400-9306

## 政治体制・内政

- 1.政体 立憲君主制
- 2.元首 英国女王エリザベス2世
- 3.議会 二院制(上院9名、下院29名)
- 4.政府 (1)首相名 サイド・ムサ(Said Musa)  
(2)外相名 リサ・ショーマン(Lisa Shoman)

## 5.内政

(1)1981年の独立以来、イギリス式議会制度の下で安定した民主主義が継続している。主要政党は民主連合党(United Democratic Party:UDP)と人民連合党(People's United Party:PUP)の2政党であり、政権はこの二大政党間で交互に交替してきている。

(2)1988年8月の総選挙で野党(PUP)が29議席中26議席を占め勝利し、サイド・ムサ党首が首相に就任した。

2003年3月、PUPは総選挙で再び勝利し、第二次ムサ政権が発足した。

ムサ政権は、与党PUPが議会の大半の議席を占めていたため、当初安定していた。

しかしながら、積極財政路線、対外債務が政権発足時の2倍に膨れあがったため、2004年頃から各種格付け会社等が相次いでベリーズ国債の格下げを発表し、その頃から、政府の不透明な財政運営に対する不満が徐々に高まった。

同年夏には、ムサ政権の閣僚が社会保障基金の資金を流用していたことが暴露され、これに伴い政府の7閣僚が一時辞表を提出する騒ぎが起きるなど、政情不安定化の兆しを見せた。

さらに、2005年1月に、財政再建のための増税等の不人気政策を含む予算案が議会に提出されると、国民の怒りが爆発し、同年2月から3月にかけてムサ首相の辞任を求めて建国以来最大規模のストライキ・反政府デモが実施され、ムサ政権の存続が危ぶまれた。

ムサ政権は、このような危機に直面して、一連のスト・デモを組織していた労働組合との粘り強い交渉を経て、事態の收拾に成功した。

しかし、2007年5月には、ムサ首相が民間保険医療機関への政府資金投入を閣議の承認なしに決定したことが発端となり、国民の不満が高まった結果、数名の閣僚が辞任し、内閣改造が実施された。

## 外交・国防

### 1.外交基本方針

(1)英国との伝統的友好関係を重視(英連邦加盟国)。(1994年末まで英軍駐留)

(2)カリブ共同体(カリコム)加盟国としてカリブ諸国と良好な関係。

2001年にはSICA(中米統合機構)にも正式加盟し、中米諸国の一員としての活動も活発化。

(3)台湾を承認、中国との外交関係停止。

(4)グアテマラとの間に国境問題があり、現在仲介プロセス進行中(2002年9月OAS仲介案が提示された)。

### 2.軍事力

(1)予算 約19百万ドル(2003年推定)

(2)兵役 志願制

(3)兵力 1,050人(ミリタリー・バランス2004年/2005年)

## 経済(単位:米ドル)

1.主要産業 林業、砂糖、柑橘類、水産物

2.GDI 1,000百万(2005年 世銀)

3.一人当たりGDI 3,500ドル(2005年 世銀)

4.GDP成長率 3.1%(2005年 CSO:ベリーズ中央統計局)

5.物価上昇率 3.7%(2005年 CSO)

6.失業率 11.0%(2003年 CSO)

7.貿易額 (1)輸出 212百万ドル ベリーズ統計局(CSO)

(2)輸入 592百万ドル ベリーズ統計局(CSO)

8.主要貿易品 (1)輸出 食料品、雑貨

(2)輸入 鉱物類・燃料、機械類、輸送機器、食料

### 9.主要貿易相手国

(1)輸出 米国、英国、ジャマイカ、日本

(2)輸入 米国、メキシコ、グアテマラ

10.通貨 ベリーズ・ドル

11.為替レート 1米ドル=2.00ベリーズ・ドル(固定)

### 12.経済概況

主産業は砂糖、バナナ、柑橘類などの農業であり全外貨収入の約70%、労働力の約20%を占めている。

砂糖価格の低迷、バナナ輸出のEU割当の廃止等により、今後は砂糖・バナナ以外の農産物生産の多様化が課題である。

最近観光などのサービス業の比重が増加。

## 経済協力(単位:億円)

### 1.我が国の援助実績

(1)有償資金協力(2005年度まで、交換公文ベース) 実績なし

(2)無償資金協力(2005年度まで、交換公文ベース) 1.81億円

(3)技術協力実績(2005年度まで、JICAベース) 8.39億円

### 2.主要援助国(2004年)

(1)米国 (2)日本 (3)カナダ (4)英国 (5)アイルランド

## 二国間関係

### 1.政治関係

1981年9月21日の独立と同時に、我が国はこれを承認。  
1982年11月3日外交関係開設。  
1984年3月27日我が方大使館設置(在メキシコ大使館が兼轄。  
2006年1月1日より、我が方ジャマイカ大使館がベリーズを兼轄している。)  
ベリーズは、1984年駐日名誉領事館設置。  
1995年7月3日名誉総領事館に昇格の後、  
2001年8月駐日大使館(実館)を開設し、臨時代理大使を派遣(大使は本国駐在)。  
1996年5月エスキベル首相が同国首相として初来日。  
2005年10月プリセーニョ副首相が来日。

### 2.経済関係

(1)対日貿易(単位:百万米ドル/財務省貿易統計)

(イ)貿易額(単位:億円)

	2003年	2004年	2005年
輸出	11	10	9
輸入	18	22	12

(財務省貿易統計・億円)

(ロ)主要品目

輸出 魚、果実  
輸入 船舶、一般機械、乗用車

(2)我が国からの直接投資

未詳

### 3.文化関係

文化無償協力 1件(ビデオ、音響、照明機材)(2001年度まで)

### 4.在留邦人数

46人(2006年10月現在)

### 5.在日当該国人数

5人(2006年12月現在)

### 6.要人往来

(1)往

年月	要人名
1981年	内藤特派大使(独立式典)
1983年	山下徳夫衆議院議員
1984年	同上
2001年	山口外務大臣政務官
2006年	金子農水政務官

(2)来

年月	要人名
1984年	ムサ教育相
1985年	アラゴン保健・労働・スポーツ相
1986年	リンド農相
1990年	ゴードン総督(即位の礼)
1995年	ガルシア農業・漁業相
1996年	エスキベル首相
1998年	マルティネス通産相
2000年	シルバ農水・共同組合相(日・カリコム閣僚レベル会合)
2005年	プリセーニョ副首相

### 7.二国間条約・取極

1999年 青年海外協力隊派遣取極

2006年 技術協力協定